

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
総括研究報告書

がん対策における緩和ケアの評価に関する研究

研究代表者 加藤 雅志
国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援研究部長

研究要旨 本研究の目的は、がん対策推進基本計画（以下、基本計画）で定められた「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」の達成を目的とする施策による変化を評価することである。本年度は、がん対策における「緩和ケア」の進捗を管理するための評価指標を作成した。また、基本計画策定後の緩和ケアの変化として、患者や医療者等からみたがん医療現場の変化とその変化の発現にいたる理由についてインタビュー調査を実施した。加えて、がん診療連携拠点病院の緩和ケアの質を向上することを目的として、がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）の緩和ケア提供体制について、PDCA サイクルの構築に活用できる方法を検討した。

A. 研究目的

本研究の目的は、がん対策推進基本計画（以下、基本計画）で定められた「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」の達成を目的とする施策による変化を評価することを目的とした。具体的には、1) がん対策における「緩和ケア」の進捗状況を管理するための評価指標を作成すること。2) 基本計画策定後の変化について、既存のデータ等を含めて推移を示して変化を検証するとともに、患者や医療者等からみた変化とその変化の発現にいたる理由について質的・量的な検証を行うことによって、施策に係る問題点や課題を明らかにし、緩和ケアに関するがん対策の目標達成状況を評価する。また、がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）の緩和ケア提供体制について、PDCAサイクルの構築に活用できる方法を検討することである。

B. 研究方法

各研究目的に応じた研究方法を用いた。詳細については、分担報告書に記載した。

（倫理的配慮）

本研究は、疫学研究に関する倫理指針に従い、国立がん研究センターの研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

- (1) 基本計画策定後の患者や医療者からみた緩和ケアの変化に関する質的研究
基本計画策定後の医療現場の変化を明らかに

することを目的として、現・前がん対策推進協議会委員9名、現・前緩和ケア推進検討会委員3名、拠点病院の緩和ケアの提供体制における実地調査に関するワーキンググループ構成員6名を含む医師・看護師・患者・遺族28名を対象にインタビュー調査を実施した。インタビューの方法は半構造的面接または電話インタビューを用いた。主な調査内容は①基本計画策定後（2007年以降）の緩和ケアの変化、②緩和ケアに関する施策の有用性、③緩和ケアに関する施策の全般的評価、④今後への推奨について対象から意見を聴取した。

- (2) 基本計画策定前後の患者・家族・医療者からみた緩和ケアの変化に関する量的研究

(1) の研究結果をもとに調査項目を作成し、H26年度に医師・看護師の層別無作為抽出法による大規模な量的調査を実施する予定である。

- (3) がん対策における緩和ケアの進捗管理指標の作成に関する研究

がん対策における「緩和ケア」分野の進捗管理指標を開発することを目的として、現・前がん対策推進協議会委員、現・前緩和ケア推進検討会委員、拠点病院の緩和ケアの提供体制における実施調査に関するワーキンググループ構成員、緩和ケアに係る医療者48名の意見を集約し、緩和ケア分野の進捗管理指標を作成した。意見の集約方法は、定型の方法（デルファイ法）による3回の郵送調査と、3回の調査結果に基づくグループディスカッションによる検討会議を実

施した。

関する状況】【医療用麻薬の利用状況】【緩和ケア専門サービスの普及状況】【緩和ケア専門人員の配置状況】【一般医療者に関する教育状況】【一般市民への普及状況】【緩和ケアに関する地域連携の状況】【がん患者のQOL】【終末期がん患者のケアの質の状況】【終末期がん患者のQOLの状況】【家族ケアの状況】、15項目で構成する指標が選定された。

選定された指標について、H26年度に測定方法の検討と測定を実施する予定である。

(4) 基本計画策定前後約10年間の緩和ケアに関する既存指標の推移に関する研究

緩和ケアに関する既存指標の推移について、H26年度に政府統計データや先行研究結果についてまとめる予定である。

(5) 拠点病院の緩和ケア提供体制に関するPDCAサイクルの構築に向けた研究

拠点病院が実施で緩和ケア提供体制に関するPDCAサイクルを構築するための第一段階として、拠点病院が目指すべき基準を作成し、作成した基準に基づき評価を実施するための評価指標を開発することを目的とする。開発の方法は、8名の緩和ケアに係る専門家と2名の研究者の意見を集約するため、定型的方法（デルファイ法）による1回の電子メールを用いた調査を実施した。調査の結果、緩和ケアの基準として6カテゴリ【施設全体の緩和ケアに取り組む体制】【院内の緩和ケアに関する連携体制】【基本的な緩和ケアの提供体制】【専門的な緩和ケアの提供体制】【相談支援センターの緩和ケアに取り組む体制】【緩和ケアに関する地域連携】で構成する22の基準と72の評価推奨項目が暫定版として選定された。

選定された暫定版22基準と72項目について専門家パネルにて再度検討を行ったうえで、評価指標を確定する予定である。

D. 考察

現在、継続してインタビュー調査とインタビュー内容の分析を実施中である。今後調査結果について内容分析を進めていくことで、基本計画策定後の緩和ケアに関する患者や医療者の変

検討の結果、最終的に11ドメイン【死亡場所に化と変化が生じた理由について明らかにすることが課題である。また、調査結果を(2)の緩和ケアの変化に関する量的検証に用いることで、がん診療に携わる医師・看護師の全体的な変化を検証することが課題である。

本研究によって、11ドメイン15項目の緩和ケアの進捗管理指標が策定された。指標の選定により、がん対策の緩和ケアについて進捗を管理する方法が提案できるとともに、今後経年的に測定することで進捗状況の管理が可能となった。今後は、H26年度に測定方法の検討と測定することが課題である。

拠点病院の緩和ケア提供体制に関するPDCAサイクルの構築に向けた研究では、作成した拠点病院の緩和ケアの基準と評価推奨項目【暫定版】をもとに、更に検討を重ね、評価指標を確定することが今後の課題である。

E. 結論

本研究では、今年度がん対策の緩和ケアに関する進捗管理指標が策定された。今後は、本指標を用いたがん対策「緩和ケア」の進捗を管理していく方法について検討していく。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

がん対策推進協議会や厚生労働省緩和ケア推進検討会等で、適宜進捗状況について報告している。

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし